

地域密着型サービス評価の自己評価株式会社 グループホームさいかB

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域の祭りに参加したり、地区の公民館で定期的開催されている「人情喫茶」に利用者様と参加したりしている。また利用者様と地区の花植え活動を行ったり清掃活動に参加したりと地域との接点を多く作るようにし、地域ケア・地域福祉の一助となり利用者様への還元を目指している。そうした取り組みにより閉塞感・制限の少ない環境作りを理念にもうたっ</p>	○	土地柄、地元の高齢者の生涯学習が盛んなこともあり、これからもそうした地域との繋がりを模索し、開かれたホーム・地域福祉への貢献を目指したい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>会議や外部研修を通じ、自分たちのケアの在り方を見つめ直したり、カンファレンスにより個別にも理念と実践の結びつきを図っている。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議にて、地域への理解を求めている。またホームのほうから出来るだけ地域に顔を出すようにし、ホームの存在・利用者様の存在を認知して頂けるよう努めている。</p>	○	ホームの人と地域の人が触れ合う機会を作り、もっと身近な存在になっていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>玄関周りを改修工事を行い、入り口に花を飾ったり入りやすい雰囲気に配慮している。また見学に来た方を迎える雰囲気作りや教育に努めている。地域の行事や集まりに顔を出すようにし、地域の方とも馴染みの関係が作れるように努めている。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>区費を納めたり清掃活動に参加している。また花植え活動などにも参加させて頂いている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地区の高齢者の交流の場である「人情きっさ」に参加させて頂いている。その中で雑巾縫い等の仕事を請け負うこともある。	○	介護相談などのニーズが具体的に見えてくれば力になりたい。またそうした地域の寄り合いの場として場所を提供したりもしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年の評価を参考に、改善に向けて取り組んでいる。	○	職員の入れ替わりや環境面で、なかなか改善できない項目もある。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	何度か会議を開催したものの机上の会議ではなかなかニーズは見えてこなかった。まず交流の機会を多く持つほうがよいと判断し、イベントに招来したり地元のイベントに足を運ぶようにしている。	○	交流の中からニーズを見つけ出し、具体的な活動や取り組みの糸口にしたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月報告書やお便りを提出し、その都度口頭でも報告や相談を行うようにしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は必要に応じて成年後見制度の利用をご家族やご本人に進言している。職員へは外部研修などになるべく参加させ学ぶ機会とさせている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、会議や研修等をとおして虐待防止関連法について学ぶ機会を設けている。また職員に対しては実際あった虐待事件を取り上げ自省の材料にしたりしている。また職員のストレスが利用者に向かわないように職員へのストレスケアにも取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	実施できている。	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	定期的に個別カンファレンスを行い、利用者様のニーズや意見を吸い上げるようにしている。	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	1ヶ月毎に、ホーム便りと職員が書いた手紙を送付しており、その中にご家族に宛てて、一人ひとり様子を記入している。	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族へのアンケートを実施している。また遠方で面会に来にくい家族の為月々の便りやお知らせを充実し、ホームでの利用者様の生活状況が少しでも伝わるよう情報提供している。また面会にきやすい・意見をいいやすい雰囲気作りに努めている。	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	管理者は、日々の業務連絡時を基本に、1ヶ月毎に会議を行い、職員の意見や提案を聞いている。また現場主任を交えたリーダー会議も不定期で実施し、運営改善に生かしている。	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	来客対応や有事の臨機応変な対応を可能とするべく余裕のある人員配置を行っている。	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	新入職者が職場になじめるような初期教育・フォローに力を入れている。新人職員用に研修資料を作成し、早く職務を習熟できるようにツールを用意している。また初期は現場主任による集中的な指導を行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回のスタッフ会議の中で意識向上の勉強や研修を行うほか、職員は担当利用者様に関するカンファレンスを行うことで個別に介護観・ケアについて学ぶ機会を作っている。また自学自習のための資料を揃えたり外部研修への参加機会を設けたりといった支援を行っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業他社に見学に行ったり、見学に来てもらったりして相互に刺激を与え合っている。他事業所への職場体験をお願いしたり受け入れたりも行っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフ会議やカンファレンスを通し、現場のニーズを把握している。また職員の個別の悩みを吸い上げるシートを書いたり、面談にて悩みを聞いたりしている。また慰労会などスタッフのねぎらいの機会を設けている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得に対して、勤務を優遇したり、表彰制度を設けて、資質及び意欲が向上するよう努めている。また職員個々の能力や取り組みを把握するように努め、昇進や賞与に反映するようにしている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に、ご家族や担当ケアマネなどから事前情報を頂く様にし、面接を通して信頼関係が構築できるように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	担当ケアマネや個家族自身との面接を通して、信頼関係が構築できるように努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際に、他のサービス利用が適切と判断された場合は他事業所を紹介したり連絡をとったりしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずは本人も含め見学して頂くことを勧め、納得の上でサービスを開始して頂けるようにしている。待機待ちの利用者様に入居までの間、気軽に遊びに来たりして頂けるよう話したりしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人の能力を活かして、生活の再構築が出来る方向での処遇計画を立案し、実行している。また利用者様には個別に職員を担当させて頂き、生活史の把握に努めたり日常の発見や気付きをサービスにきめ細かく反映できるようにしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子を出来るだけこまめに伝え、処遇や外出への協力を得られるように努めている。	○	現状以上にご家族が関われる場面が増やせるように努めたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時間を定めず、いつでも面会に来られるようにしている。またイベントなどホームに来るきっかけ作りや、日常利用者様が訴える家族への想いを伝えるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの友人にもいつでも面会に来て頂けるよう勧めている。また手紙を送る支援なども行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食堂の座席位置などをはじめ、利用者様同士の関係に注意を払っている。また利用者様同士の人間関係作りを目的としたレクリエーションや処遇作りに配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院先の病院へお見舞いに行ったり、ご家族からの相談に応じている。退所後も遠慮なくホームへ遊びに来て頂けるようお話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を感じ取り、実行する事を基本姿勢としている。把握や検討の仕方についてはカンファレンスで話し合ったりしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居されて以降も、ご家族からの情報収集を行い、処遇に取り入れるようと止めている。また収集した情報を担当職員を通じて活かせるように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	処遇計画を通し、それらをアセスメント出来るようにしてる。また、日々の変化を記録に残すようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が、事前に計画書を作成し、それを基に処遇会議・カンファレンスを実施。その際に他の職員の意見が反映されるようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本の見直し期間は3ヶ月としている。その間も細かな対応方法の見直しや変更などはカンファレンスなどを通じ随時検討している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に「小見出し」を付け、後からでも情報を整理しやすくするなどの工夫を行っている。また日々の「気づき」を出来るだけ前向きに必要な「情報」として捉え、記録に残すよう指導している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族やご本人の意向や状態を踏まえ、主治医の選定や受診支援、買い物代行なども行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地元の慰問ボランティアや活動支援ボランティアに来て頂いている。万が一の飛び出しがあった際等の協力を近所や警察にお願いしたりしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	リハビリテーションが必要な方には、介護老人保健施設への入居を支援するなど、適正なサービスが利用できるよう努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在の所では、特にその必要性を感じる対象者がいない為、実施していない。	○	必要なケースが発生した場合には、協働していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ、入居される前からの医師の診察が受けられるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご本人の誇りやプライバシーを侵害しないよう、随時職員に指導している。また接遇研修を内部で行ったり、外部研修に職員を出したりしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人の発言内容を生活記録に残すなど、ご本人の発言を重要視している。また職員における認知症症状での「問題行動」という認識を是正するようにし、「ニーズの表出・声にならぬ声」として汲み取る姿勢を指導している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間やご本人の体力などを考慮し、個別に対応するよう努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご本人が希望する美容院へ行けるよう配慮している。またその人らしいおしゃれや身だしなみが保てるように配慮している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	恒常的ではないが、摂取状況に応じ、ご本人の嗜好を取り入れた別メニューで対応したり、水分摂取が困難な方には、ゼリーを作って対応している。また季節感を感じる食材を利用者様とともに準備したり、漬物(ぬか床)を作ったりしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご家族の許可が有れば、喫煙していただいている。アルコール類については、ノンアルコールビールを含め、雰囲気だけでも楽しんでいただけるよう努めている。	○ 現行、アルコール類の摂取は、イベント時のみ程度なため、日常的に楽しめるような配慮をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	生活記録などを基に、出来るだけおむつに頼らない排泄が行えるよう努めている。また、おむつ類を使用する際は、必ずご家族にご本人の様子を伝え、了解を頂いてから実施している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日行っている。入浴時間は夕方に決めてしまっているが、その時間に希望やタイミングが合わない方に関しては個別に午前や午後に随時入浴頂いたりしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の睡眠状況や、体調の変化などを把握し、適切な休息が確保できるよう努めたり、不眠の場合は添い寝をするなどして、安心して入眠できるよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	張り合いのある生活を送っていただくことが、グループホームを“居場所”として感じ取っていただくためには必須と考え、野菜作りや編み物、食事作りや草むしりなどご本人が好まれていた・馴染んできた活動を取り入れるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ご自分で金銭管理を行っているご利用者はいない。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日はできるだけ散歩に行くように心掛けている。ADLの高い方が車椅子の方を押したりと助け合って外出できるように支援している。また中庭での活動の楽しみが増えるようにしたり、花摘みなど興味を持てる活動行っただいて		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の方が旅行に連れていってくれたりはあるが、ホーム側で個別の長距離の外出支援は行えていない。	○	付添ボランティアなど、個別対応ができる体制を模索したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が書いた手紙を出す支援などを行っている。また電話をかける手伝いなども行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	友人等には、ご家族を通してホームに入居されていることを伝えていただき、面会は自由である旨を説明していただくようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	飛び出し事故を受け、玄関及び居室の窓などの施錠を行っているため、取り組んでいるとはいええない。しかし排泄の後退や服薬による行動抑制を減らすべく主治医との連携や職員教育を行っている。	○	施錠による弊害を減らせるように努めたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けないケアの必要性や、鍵を掛けることの弊害は理解しているが、飛び出し事故を受けて、現在は解錠できない状態。しかし玄関周辺を開放感のある作りに改修し、職員配置や体制を改善し時間帯によって部分解錠は行っている。	○	所在確認や飛び出しに対する対応の充実などにより開錠する時間を長くしたい。また職員教育により施錠からくる弊害の軽減に努めたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の所在確認や安全確認などの観察や目配りに対する指導を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品の管理については、その方の認知や状態に応じ臨機応変に対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書やヒヤリハットの提出を徹底し、その都度指導を行っている。また避難訓練や火災予防のための話し合い、誤嚥を未然に防ぐ体操の取り組みなどを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の対応マニュアルの策定や連絡方法を周知。救急車の呼び方についての指導などを行っている。	○	応急処置や救急法について学べる機会を設けたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難経路や消火器の配置などは有事を想定したり、火の気になるものをなくしたりぶつかって危険なものはマメに片付けたりしてリスク低減を図っている。	○	現在の所、地域の方々に協力が得られるまでの関係にまだなっていない。今後検討していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こりうるリスクについて家族には口頭並びに手紙でお伝えしている。また病状について詳しい報告が必要な際は主治医にリスクを書面で書いて頂き、今後の対応について家族に同意をとるようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	定時のバイタルサインのチェックの他、排便や飲水状況、臨時検温などを実施し、体調の変化を見逃さないように努めている。また、得られた情報は、申し送りを含め、速やかに情報共有がなされるよう努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者一人ひとりの服薬内容等を把握するよう努めているが、職員全員が把握できている状況ではない。特に投与後の観察が必要な薬剤については、管理者並びに現場主任が都度観察の指示を出している。	○	薬の重要性を認識し、その副作用など薬剤による影響を職員全員が把握できるよう指導していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ほぼ全員の排便状況を把握するよう努めており、飲水量や運動量、下剤の必要性など、管理者及び現場主任がその都度指示を出している。また自然食品や体操など薬に頼らない自然な排泄を目指している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアを実施しているほか、訪問歯科医より口腔リハビリや口腔ケア方法についての指導を頂き実施している。また口腔内の機能改善や誤嚥予防のために毎食前に口腔運動を取り入れている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、出来るだけご家庭で使っていた品物やご家族の写真など、使い慣れていたり、思い出の品となるようなものを持ち込んで頂けるよう依頼している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	エアコンによる温度調整は利用者様の身体に負担を掛けるため、できるだけ窓の開閉と衣類による温度調整を行っている。また植物の配置を多くし、心地よい空気の循環を目指している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッド周りに、滑り止めのマットを敷いたり、夜間は明るすぎない程度の光が廊下に入るよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレに「お手洗い」と掲示したり、ご本人の居室に名札を掲示したりしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭を、ご利用者の活動できる場所として花植えや野菜作りをしている。また建物の外回りを草むしりや草花の飼育スペースとして活用している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者様が肩肘をはって職員に対して気疲れしない馴染みの関係が築けるように努めている。利用者様への関わり方・声かけなどもそれを目指しているが、反面、慣れなし・礼儀にかけるものとなっていないか常に自省する姿勢を忘れないようにしている。認知症の方の生活を支える上で、選択肢を多く提供できることに努め「穏やかで安心感のある雰囲気」と同じくらい「生活の張り合い・生き生きとした生活」を大事にするようにしている。また地域との関わりの中で活かし活かされる関係を目指し、いろいろな方の訪れてくれるオープンな雰囲気作りをしていく中で、今できる地位貢献を少しずつ始めていく。またそこを利用者しているご本人・家族また地域の方のみならず、そこで働く従業員も含めて皆にとってよりよい事業所であるよう試行錯誤を繰り返している。